

科目名	英語学特講	担当者	カワシマ 川嶋 マサシ 正士	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>大学院におけるトレーニングでは、文献を熟読し、先行研究や隣接した研究に照らし合わせて新たな知見を見出し、体系化することが重要な事柄の一つです。</p> <p>英語学は、言語理論的な研究から、英語教育における実践的な研究まで幅広く行われています。本講座では、英文法の専門書を共通の基底として、英語学の統語論を、経験科学の範疇において、様々な側面から考察することを目的としています。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>英語学の方法論を、英語の言語事実の研究を通じ、実践的に学修することを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語の語法・意味について基本的知識を修得する。 文を単位とした統語的分析方法を修得する。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio を通じて、レポート課題提出の討論などの協働学習を行う。 manaba folio を通じて教員とインタラクティブな学習を行う。 manaba folio の観察記録に基づき自身の学修を振り返る。 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>教材と関連文献の学修 (15 時間)</p> <p>レポート課題初稿作成 (15 時間)</p> <p>レポート課題最終稿の完成 (15 時間) 指導教員の添削や討論を含む</p> <p>*学修時間はレポート課題 1 件あたりの目安時間</p>		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 1 締切 6 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事歴で定められた日) レポート課題 2 締切 8 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事歴で定められた日) <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題 1 締切 11 月 15 日 (初稿) (最終稿提出期限 学事歴で定められた日) レポート課題 2 締切 12 月末 (初稿) (最終稿提出期限 学事歴で定められた日) 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式 (構成, スタイルの一貫性, 引用の仕方, 表現の簡素さと適切さ), 内容 (論旨展開と結論の提示の明快さ, 先行研究の参照度と独創性, 課題把握の適切性) *後期のレポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 *その他のレポートは、最終稿で評価する。
	観察記録	20 %	討論への貢献, 指導教員の添削への対応など
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員のコメントや討論のフィードバックを反映しレポートを完成させてください。 先行研究や引用と新規な知見は明確に区別してください。 書式は、APA もしくは MLA の最新のマニュアルに準じてください。 受講生間で積極的に情報交換や議論を行ってください。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Douglas Biber, Susan Conrad, and Geoffrey Leech 教材名： <i>Longman Student Grammar of Spoken and Written English</i>
	使用教材は、Student Grammar と題されているが、コーパス言語学の知見を活かした専門書である。高等学校や大学で英語を教えることの基本的な知識が網羅されている良書です。 指定された範囲以外も興味を持った領域は自主的に学修してください。
参考図書	Randolf Quark et al. 著 <i>A Comprehensive Grammar of The English Language</i> Pierson (Paperback)
履修上のポイント	教材の第1～3章は、文分析の根本に関することなどで、熟読の上十分理解してください。
レポート課題 1	第1章の概要をまとめ、問題意識を持った個所に関して考察しなさい（日本の教育英文法や言語理論との対比を行ってください）。 留意点 ：英文法と英語学の関係を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察してください。
レポート課題 2	第2, 3章を読んだうえで、研究対象する章の概要をまとめ、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。（3,000字～4,000字） 留意点 ：少なくとも先行研究1点との対比を含めます。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Douglas Biber, Susan Conrad, and Geoffrey Leech 教材名： <i>Longman Student Grammar of Spoken and Written English</i>
	使用教材は、Student Grammar と題されているが、コーパス言語学の知見を活かした専門書である。高等学校や大学で英語を教えることの基本的な知識が網羅されている良書です。 指定された範囲以外も興味を持った領域は自主的に学修してください。
参考図書	Randolf Quark et al. 著 <i>A Comprehensive Grammar of The English Language</i> Pierson (Paperback)
履修上のポイント	教材の第4, 5章は、主部と述部構造の根本に関することなので、熟読の上十分理解してください。
レポート課題 1	第4章の概要をまとめ、考察しなさい（日本の教育英文法や言語理論との対比） 留意点 ：英文法と英語学の関係を理解し、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察すること。
レポート課題 2	第5章を読んだうえで、研究対象とする箇所の概要をまとめ、理論的もしくは応用的な知見と照らし合わせ考察しなさい。（3,000字～4,000字） 留意点 ：少なくとも先行研究1点との対比を含めます。

基本教材 1

第 1 回	教材の第 1 章を読み、英語学研究における文法について考える
第 2 回	教材の第 1 章を振り返り、コーパス言語学と言語変異について考える
第 3 回	教材の第 1 章を振り返り、レポート課題 1 の構想を練る
第 4 回	教材の第 1 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題 1 の下書きをする
第 5 回	レポート課題 1 の初稿を執筆する
第 6 回	レポート課題 1 の初稿を推敲し、提出する
第 7 回	教材の第 2 章を読み、語の定義と類について考える
第 8 回	教材の第 3 章を読み、句と節について考える
第 9 回	レポート課題 1 の添削指導をもとに最終稿を作成する
第 10 回	教材の第 2, 3 章を振り返り、レポート 2 の構想を練る
第 11 回	教材の第 2, 3 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題 2 について下書きする
第 12 回	レポート課題 2 の初稿を執筆する
第 13 回	レポート課題 2 の初稿を推敲し、提出する
第 14 回	第 1 章から第 3 章でレポート課題 1 と 2 について参照した個所を振り返る
第 15 回	レポート課題 2 の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する

基本教材 2

第 1 回	教材の第 4 章 (4.1-4.4) を読み、名詞について考える
第 2 回	教材の第 4 章 (4.5-4.8) を読み、決定詞や冠詞について考える
第 3 回	教材の第 4 章 (4.9-4.16) を読み、代名詞について考える
第 4 回	教材の第 4 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題 1 の下書きをする
第 5 回	レポート課題 1 の初稿を執筆する
第 6 回	レポート課題 1 の初稿を推敲し、提出する
第 7 回	教材の第 5 章 (5.1-5.6) を読み、動詞の機能や分類について考える
第 8 回	教材の第 5 章 (5.7-5.12) を読み、動詞の構造や意味で考える
第 9 回	レポート課題 1 の添削指導をもとに最終稿を作成する
第 10 回	教材の第 5 章 (5.13-5.17) を読み、各動詞の特徴について考える
第 11 回	教材の第 5 章のうち、問題意識を持った個所を研究し、レポート課題 2 の下書きをする
第 12 回	レポート課題 2 の初稿を執筆する
第 13 回	レポート課題 2 の初稿を推敲し、提出する
第 14 回	第 4 章から第 5 章でレポート課題 1 と 2 について参照した個所を振り返る
第 15 回	レポート課題 2 の添削指導をもとに最終稿を作成し、提出する